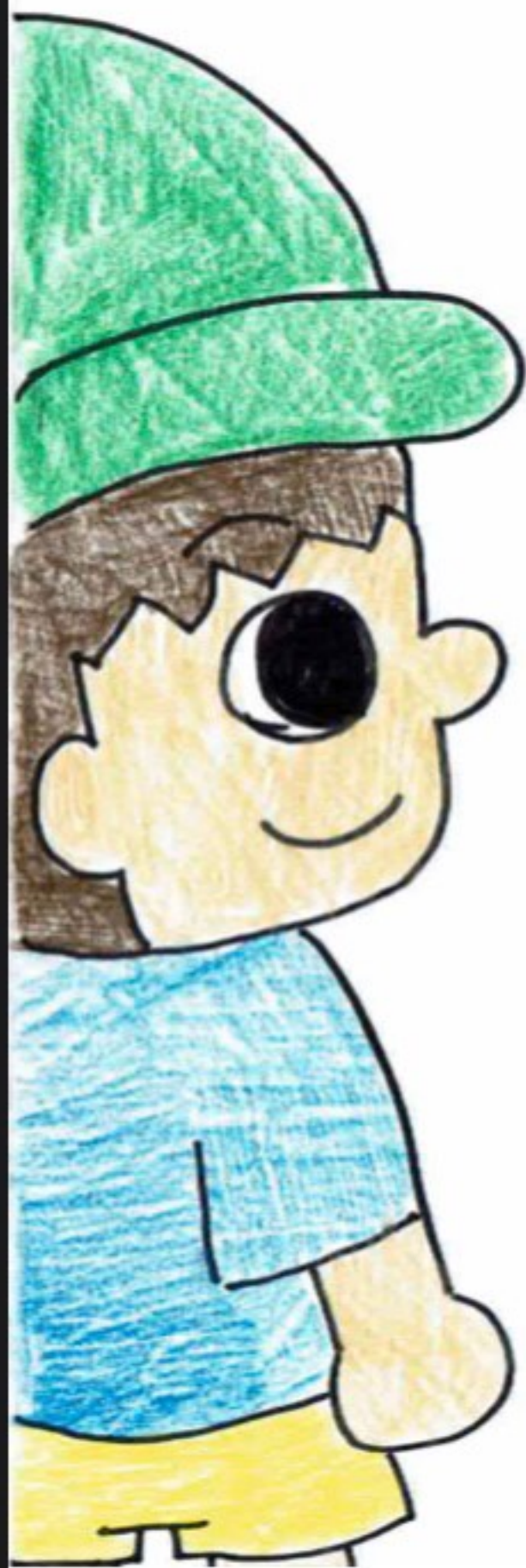
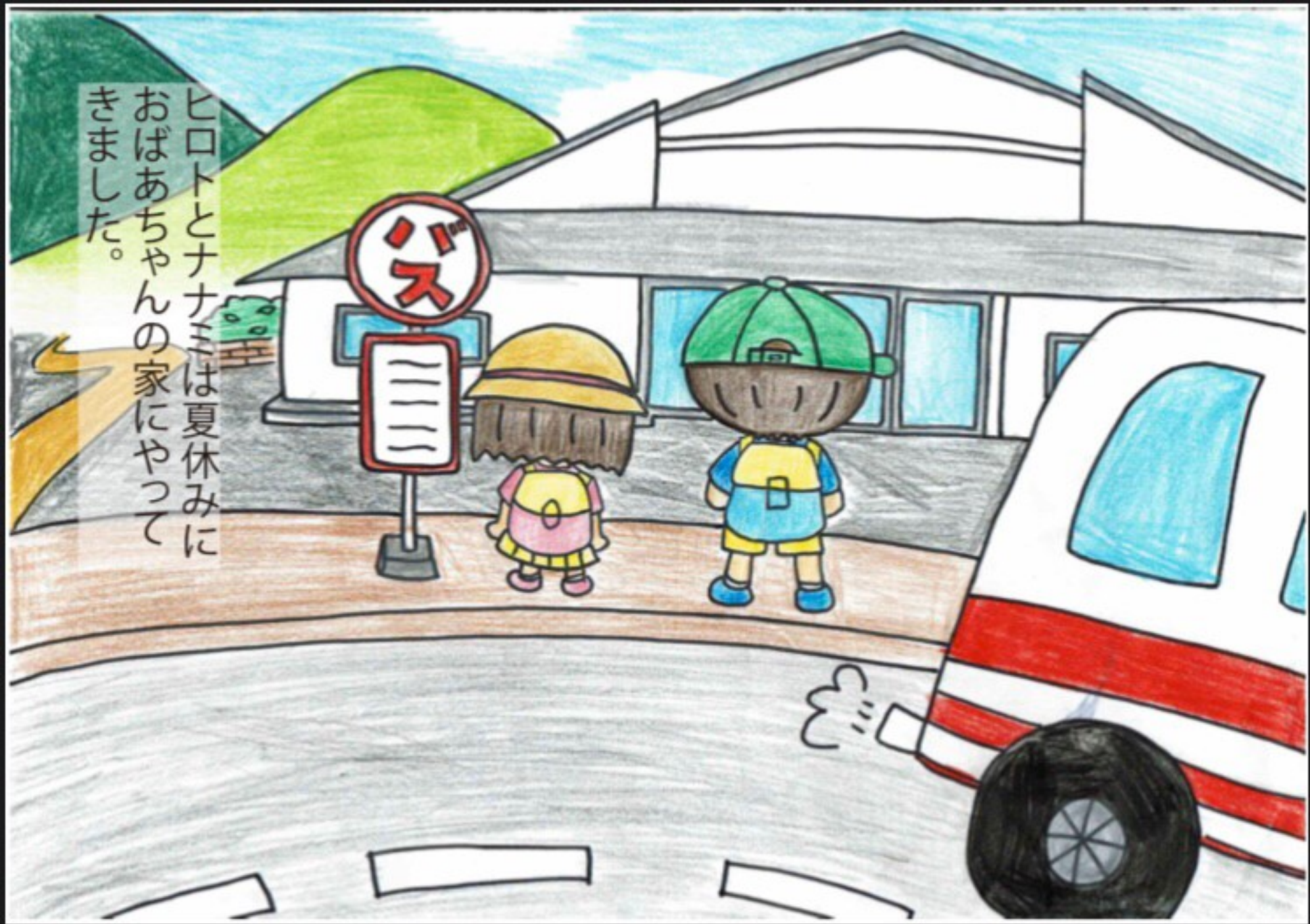


お花さんのおんがえし



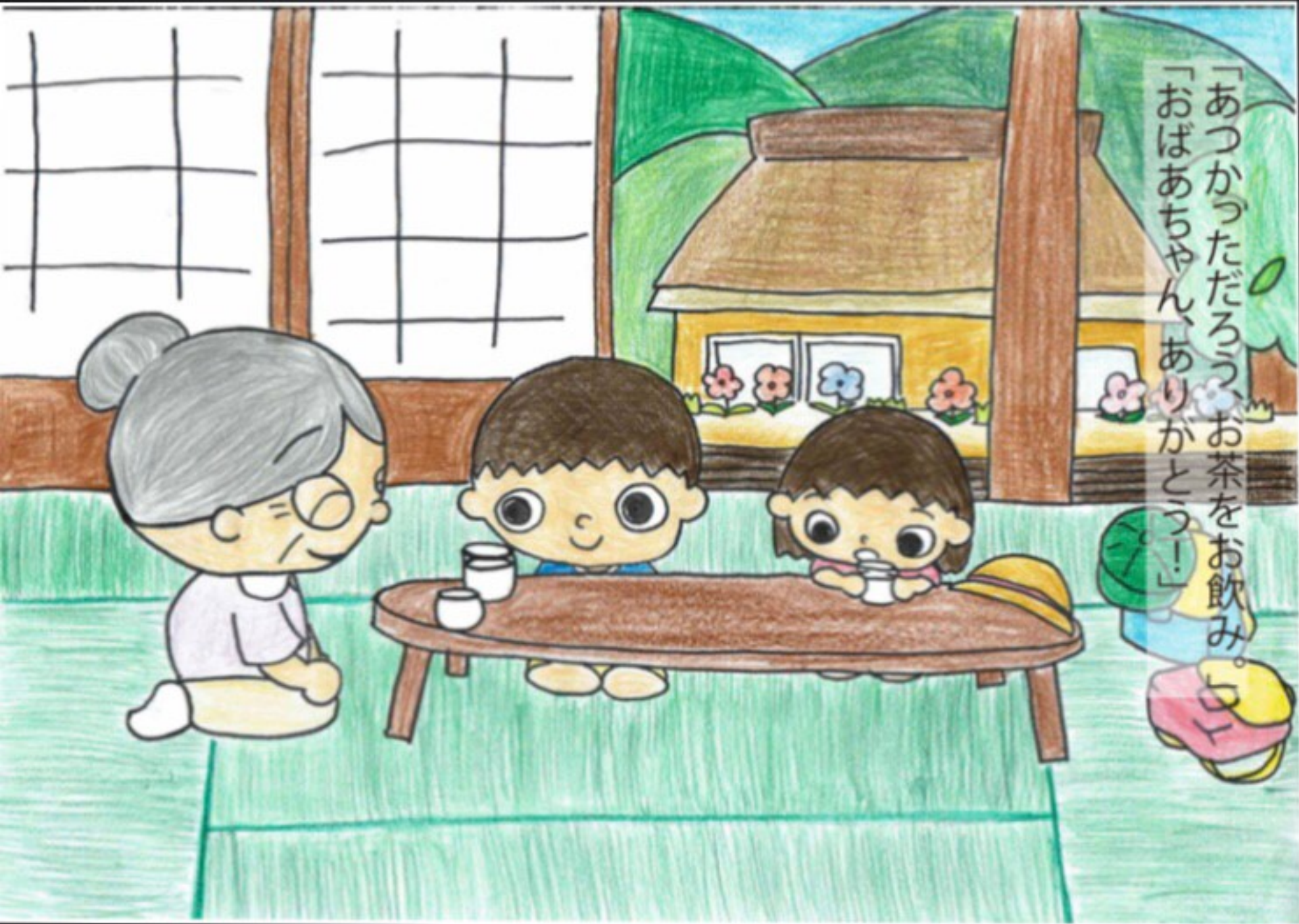
ヒロトとナナキは夏休みに
おばあちゃんの家に行つて
きました。



おばあちゃんの家の前には花だんがあります。
でも、お花さんはなんだか元気がなさそう。

「お花さん、元気ないね。」
「あついからかなあ。」





「あつかったらろう、お茶をお飲み。おはあちゃん、ありがとう！」

「さあ、お花にお水を
あげないといけない
んだけど、腰が痛く
てねえ……。いたた。」



「おばあちゃん、大丈夫？」

「ぼくたちが代わりにお水を
あげてくるよ!」





「おまたせ。」
「お花さん、お水をどうぞ。」

「ありがとう！
元気になったよ！」





「向こうにも元気のないお花たちがいるから、
お水をあげてきてほしいんだ。」

ヒロトとナナミは、村中のお花さんにお水をあげました。



お花さんたちは元気になりました。

「お花さんたちが元気に
なつてよかつたね！」



「楽しかつたね！」
二人は大満足でした。

ヒロトとナナミはいつの間にか
遠くまで来ていました。
夕日ももう落ちるころです。



ヒロトがおばあちゃんの家に戻ろうと
ナナミを見ると、ナナミの顔は真っ赤に
なっていました。



「お兄ちゃん、しんどいよ。」
しかし、ナナミに飲ませる水は持って
いませんでした。

「大変だ、すぐに連れて帰らないと。」



ヒロトはナナミをおぶって走りました。



しかし、あたりは暗くなって
帰り道が分からなくなってしまう
ました。

そのとき、ヒロトとナナミが
水をあげたお花さんたちが光って
道を照らしてくれたのです。



「こっちだよー!」
「頑張って!」
お花さんたちが
応援してくれています。



ヒロトは光る道を
一生けん命に走りまし

「ナナミ、おばあちゃんの
家に着いたよ!」



「おばあちゃん！
ナナミが大変なんだ！」



「まあー早く上がってー！」

「お水を飲まずに頑張ったから、
熱中症になってしまったのね。」



体を冷やして、
スポーツドリンクを飲むのよ。」

次の日、ナナミはすっかり
元気になりました。

「昨日ね、お花さんたちが
道を教えてくれたんだ。」



「すごいわね、きつと二人がお花に
やさしくしてあげたからね。
でも今度からは、水とこうを持って、
明るいうちに帰るのよ。」

「はい。」



ヒロトとナナミがおばあちゃんの
家から帰るとき、お花さんたちが
見送ってくれているような気が
しました。



制作：
2019年度
美山木匠塾

